



## 梅から桜へ～子どもたちと迎える新しい季節

学校長 野村 光

正門を入ったところに梅の木があります。白と濃いピンクの二対の梅ですが、先日の久しぶりの雨で大部分の花びらが散りました。それでも、ふと香る梅の匂いに触れると、今年度もいよいよまとめの季節がやってきたことを感じます。四季の移ろいの中で迎える三月は、子どもたちの一年間の成長を改めて実感する日々です。今年度も、「**洋々たる未来を 光り輝いて生きる力の土台をつくります**」という学校教育目標のもと、子どもたちは学びと生活を重ねてきました。

先日、一年生が次年度入学してくる年長さんとふれあう会を行いました。入学したばかりの頃は給食の白衣の着方を上級生に教えてもらっていた一年生が、今度は自分たちが年長さんに優しく教える側となり、はじめてできる後輩に寄り添う姿を見せてくれました。その姿には、日々の関わりの中で育まれてきた思いやりと確かな成長を感じることができました。

本校では、「知・徳・体・公・開」を柱とした教育を大切に、話す・聞く力や思いやり、地域とのつながりを日々の教育活動の中で育ててきました。今年度は、ICTを活用した授業づくりに力を入れ、子どもたちが自ら学び方を選び、互いの考えを認め合う姿が多く見られるようになりました。友達との対話の中で学びが深まり、子どもたちの表情や言葉に確かな変化が感じられました。

さらに、保護者の皆様の温かい関わりも子どもたちの育ちを大きく支えてくださいました。保護者ボランティアを中心とした「読み聞かせ」の活動は、子どもたちが毎回心待ちにしている時間です。本の世界に入り込むように真剣に耳を傾ける姿からは、豊かな心が育まれていることを感じました。

地域とのつながりも、子どもたちの成長を後押ししています。交通安全推進校として地域の皆様と連携し、通学路の安全確保に向けた取り組みを続けてきました。毎朝、登校時に子どもたちを見守ってくださる学援隊の皆様の存在は、子どもたちにとって安心とあたたかさそのものです。子どもたちが交わす挨拶の声には、地域に支えられている実感と、誰かのために行動する心の芽生えが伝わってきます。洋二小の子どもたちは、まちの中で主体的に、力強く、そして優しく生きる姿を見せ始めています。

梅の花がそろそろ終わります。次は薄いピンクの花びらのサクラが満開を迎えるころ、また新しいスタートを迎えます。この一年間、保護者や地域の皆様には温かいご支援とご協力を賜り、心より感謝申し上げます。子どもも職員も、そして保護者や地域の皆様も、明日もまた通いたくなる温もりのある学校をめざして、これからもともに歩んでまいります。



▲学校の梅 【2026.2.27 撮影】